

| | |
|--------|--------------------------|
| 大学等名 | 清泉女子大学 |
| プログラム名 | 清泉女子大学データサイエンス・AI教育プログラム |

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件

| |
|---------------------|
| 学部・学科によって、修了要件は相違する |
|---------------------|

| |
|--|
| 文学部(日本語日本文学科、英語英文学科、スペイン語スペイン文学科、文化史学科、地球市民学科) |
|--|

③ 修了要件

| |
|---|
| プログラムを構成する「情報科学入門2」「情報科学入門1b」の2科目2単位必修、および「数理リテラシー」「現代社会とAI」のうちいずれか1科目2単位選択必修、計3科目4単位を修得すること。 |
|---|

- 必要最低単位数

| |
|---|
| 4 |
|---|

 単位 履修必須の有無

| |
|-------------------|
| 令和7年度までに履修必須とする計画 |
|-------------------|

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-6 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-6 |
|---------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 情報科学入門2 | 1 | ○ | ○ | | | | | | |
| 数理リテラシー | 2 | | ○ | ○ | | | | | |
| 現代社会とAI | 2 | | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-2 | 1-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-2 | 1-3 |
|---------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 数理リテラシー | 2 | | ○ | ○ | | | | | |
| 現代社会とAI | 2 | | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-4 | 1-5 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-4 | 1-5 |
|---------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 数理リテラシー | 2 | | ○ | ○ | | | | | |
| 現代社会とAI | 2 | | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 3-1 | 3-2 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 3-1 | 3-2 |
|---------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 情報科学入門2 | 1 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 数理リテラシー | 2 | | ○ | | | | | | |
| 現代社会とAI | 2 | | ○ | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

⑧ 「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 |
|----------|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|
| 情報科学入門1b | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---|--|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 数理リテラシー | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 選択項目 | 授業科目 | 選択項目 |
|------|------|------|------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

⑩ プログラムを構成する授業の内容

| 授業に含まれている内容・要素 | 講義内容 |
|---|--|
| (1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄り添っているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている | 1-1 「数理リテラシー」第1回: AIと人間の比較(1)AIによる知的振る舞い。 「数理リテラシー」第2回: AIと人間の比較(2)人による知的振る舞い。 「情報科学入門2」第5回: 個人情報、IoT、ビッグデータの扱いと責任論を考える。 「数理リテラシー」第7回: データ・AI活用が社会に及ぼす影響。 「現代社会とAI」第1回: 導入～ことばとデータ・AI その一「ことばの分析とデータ・AI」(データを起点とした考え方) |
| | 1-6 「数理リテラシー」第7回: データ・AI活用が社会に及ぼす影響。 「数理リテラシー」第10回: データ・AI活用の事例を考える(1)課題を整理する。 「数理リテラシー」第11回: データ・AI活用の事例を考える(2)提案して議論する。 「現代社会とAI」第4回: その三「ことばに関わるAI利用の動向」(AI最新技術の活用例) 「現代社会とAI」第12回: 図書館情報学とデータ・AI その三「図書館サービスにおけるデータ・AI活用事例」(AI等を活用した新しいビジネスモデル) |
| (2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの | 1-2 「数理リテラシー」第6回: 社会で活用されるデータ。 「現代社会とAI」第6回: 文学とデータ・AI その二「AIと歌謡曲」(社会で活用されているデータ) 「現代社会とAI」第8回: 文化史とデータ・AI その一「文化史とデータ解析」(データベース活用入門) |
| | 1-3 「数理リテラシー」第1回: AIと人間の比較(1)AIによる知的振る舞い。 「数理リテラシー」第2回: AIと人間の比較(2)人による知的振る舞い。 「数理リテラシー」第10回: データ・AI活用の事例を考える(1)課題を整理する。 「数理リテラシー」第11回: データ・AI活用の事例を考える(2)提案して議論する。 「現代社会とAI」第3回: ことばとデータ・AI その二「ことばの学習・翻訳とデータ・AI」(AI活用領域) 「現代社会とAI」第9回: 文化史とデータ・AI その二「AIと芸術」(データ・AI活用領域の広がり) |
| (3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることによって価値を創出するもの | 1-4 「数理リテラシー」第1回: データ・AI活用におけるAIと人間の比較(1)AIによる知的振る舞い。 「数理リテラシー」第2回: データ・AI活用におけるAIと人間の比較(2)人による知的振る舞い。 「数理リテラシー」第3回: データ・AI活用を支える基本技術(1)システムを構成する手続き。 「数理リテラシー」第4回: データ・AI活用を支える基本技術(2)システムを構成するデータ。 「数理リテラシー」第5回: データ・AI活用を支える基本技術(3)システムの構成と学習の仕組み。 「現代社会とAI」第2回: ことばとデータ・AI その一「ことばの分析とデータ・AI」(データの可視化・解析、非構造化データ処理) 「現代社会とAI」第7回: 文学とデータ・AI その三「AIと歌詞分析」「AIと日本文学」(データ・AI活用のための技術) 「現代社会とAI」第11回: 図書館情報学とデータ・AI その一「図書館とロボット、AI」(画像処理) 「現代社会とAI」第12回: 図書館情報学とデータ・AI その二「デジタルアーカイブとデータ・AIの活用のための技術」 |
| | 1-5 「数理リテラシー」第7回: データ・AI活用が社会に及ぼす影響。 「数理リテラシー」第10回: データ・AI活用の事例を考える(1)課題を整理する。 「数理リテラシー」第11回: データ・AI活用の事例を考える(2)提案して議論する。 「現代社会とAI」第5回: 文学とデータ・AI その一「AIと短歌・俳句」(AI活用の現場) 「現代社会とAI」第1回: 導入～ことばとデータ・AI その一「ことばの分析とデータ・AI」(データを起点とした考え方) |
| (4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする | 3-1 「情報科学入門2」第5回: 個人情報、IoT、ビッグデータの扱いと責任論を考える。 「数理リテラシー」第8回: データ・AI活用の問題点。 「数理リテラシー」第9回: データ・AI活用と社会制度。 「現代社会とAI」第1回: 導入～ことばとデータ・AI その一「ことばの分析とデータ・AI」(データを起点とした考え方) |
| | 3-2 「情報科学入門2」第3回: セキュリティの基本的な考え方を知り、自分のPCについてそれに合致する設定を行い利用をする。 「情報科学入門2」第4回: 社会における情報セキュリティの問題と対応方法を知る。 |

| | | |
|--|-----|--|
| (5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの | 2-1 | 「情報科学入門1b」第2回：データの加工・解釈：Excel上で統計データの表を編集する。統計データを解釈する。 「情報科学入門1b」第3回：データの収集・可視化：統計データを検索して取得する。Excel上で統計データの表をグラフに変換する。表とグラフを適切に使い分ける。複数の統計データを比較・計算する。 「数理リテラシー」第12回：データを使って発見・判断・解釈する。 |
| | 2-2 | 「情報科学入門1b」第2回：データの加工・解釈：Excel上で統計データの表を編集する。統計データを解釈する。 「情報科学入門1b」第3回：データの収集・可視化：統計データを検索して取得する。Excel上で統計データの表をグラフに変換する。表とグラフを適切に使い分ける。複数の統計データを比較・計算する。 「情報科学入門1b」第4回：データの説明：統計データを用いて社会の出来事を説明する。プレゼンテーションを設計する。自分の判断・意見をプレゼンテーションする。 「数理リテラシー」第12回：データを使って発見・判断・解釈する。 |
| | 2-3 | 「情報科学入門1b」第1回：データを扱うBYOD PCの環境を整備する。データを扱うExcelの基本操作を学ぶ。 「情報科学入門1b」第3回：データの収集・可視化：統計データを検索して取得する。Excel上で統計データの表をグラフに変換する。表とグラフを適切に使い分ける。複数の統計データを比較・計算する。 「情報科学入門1b」第4回：データの説明：統計データを用いて社会の出来事を説明する。プレゼンテーションを設計する。自分の判断・意見をプレゼンテーションする。 「数理リテラシー」第12回：データを使って発見・判断・解釈する。 |

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

自分のPCを適切に管理して、その意味を説明できる。
 情報システムが関わる社会問題とそれへの対応方法を説明できる。
 データ利活用のために自分のPCを適切に管理し利用する。
 目的に応じてデータを検索・取得・整理・活用できる。
 データを適切に分析・解釈し、データを根拠として事実や意見を他人に説明できる。
 データ・AI利活用の技術が、どのようなもので、社会でどのように活用されているかを説明できる
 データ・AI利活用がもつ負の問題・課題を説明でき、その解決案を提案できる。
 データ・AI利活用がどのように展開されるべきか検討できる。
 データ・AI利活用の技術の基本を演習できる。

| | |
|--------|--------------------------|
| 大学等名 | 清泉女子大学 |
| プログラム名 | 清泉女子大学データサイエンス・AI教育プログラム |

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

総合文化学部 総合文化学科

- ③ 修了要件
プログラムを構成する「情報社会の安全と倫理」「データリテラシー基礎」「総合文化データサイエンス」の必修科目3科目4単位を修得すること。

必要最低単位数 4 単位 履修必須の有無 令和7年度までに履修必須とする計画

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-6 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-6 |
|--------------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 情報社会の安全と倫理 | 1 | ○ | ○ | | | | | | |
| 総合文化データサイエンス | 2 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-2 | 1-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-2 | 1-3 |
|--------------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 総合文化データサイエンス | 2 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-4 | 1-5 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-4 | 1-5 |
|--------------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 総合文化データサイエンス | 2 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 3-1 | 3-2 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 3-1 | 3-2 |
|--------------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 情報社会の安全と倫理 | 1 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 総合文化データサイエンス | 2 | ○ | ○ | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

- ⑧ 「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 |
|------------|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|
| データリテラシー基礎 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|---|--|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 総合文化データサイエンス | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 選択項目 | 授業科目 | 選択項目 |
|------|------|------|------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

⑩ プログラムを構成する授業の内容

| 授業に含まれている内容・要素 | | 講義内容 |
|---|-----|--|
| (1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄り添っているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている | 1-1 | <p>「情報社会の安全と倫理」第1回:「情報社会の安全と倫理」の意味を確認する。 「情報社会の安全と倫理」第3回: 悪意のソフトウェアからPCを守る。 「情報社会の安全と倫理」第5回: 個人情報、IoT、ビッグデータの扱いと責任論を考える。 「総合文化データサイエンス」第1回: AIと人間の比較(1)AIによる知的振る舞い。 「総合文化データサイエンス」第7回: 文学とデータ・サイエンス「小説・新聞記事から見るAI」</p> |
| | 1-6 | <p>「総合文化データサイエンス」第2回: 言語とデータ・AI「テキストマイニングってなに？」 「総合文化データサイエンス」第3回: 言語とデータ・AI「AIを使いこなそう」</p> |
| (2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの | 1-2 | <p>「総合文化データサイエンス」第1回: 言語とデータ・AI「コーパスから何がわかる？」 「総合文化データサイエンス」第9回: 文学とデータ・サイエンス「AIと歌謡曲」 「総合文化データサイエンス」第10回: 文化史とデータ・サイエンス「データベース活用入門:VR美術館体験！」</p> |
| | 1-3 | <p>「総合文化データサイエンス」第2回: 言語とデータ・AI「テキストマイニングってなに？」 「総合文化データサイエンス」第3回: 言語とデータ・AI「AIを使いこなそう」 「総合文化データサイエンス」第5回: 人文科学とデータ「面倒なことはソフトウェアにやらせよう」(データの可視化、データ解析)</p> |
| (3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの | 1-4 | <p>「総合文化データサイエンス」第1回: 言語とデータ・AI「コーパスから何がわかる？」 「総合文化データサイエンス」第8回: 文学とデータ・サイエンス「短歌・俳句を探す・作る」 「総合文化データサイエンス」第9回: 文学とデータ・サイエンス「AIと歌謡曲」</p> |
| | 1-5 | <p>「総合文化データサイエンス」第10回: 文化史とデータ・サイエンス「データベース活用入門:VR美術館体験！」 「総合文化データサイエンス」第11回: 文化史とデータ・サイエンス「AIやデータベースを使って美術史を学んでみよう」 「総合文化データサイエンス」第12回: 文化史とデータ・サイエンス「デジタルとアナログを融合させて学びを深めてみよう」</p> |
| (4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする | 3-1 | <p>「情報社会の安全と倫理」第4回: 社会における情報セキュリティの問題と対応方法を知る。 「情報社会の安全と倫理」第5回: 個人情報、IoT、ビッグデータの扱いと責任論を考える。 「総合文化データサイエンス」第7回: 文学とデータ・サイエンス「小説・新聞記事から見るAI」</p> |
| | 3-2 | <p>「情報社会の安全と倫理」第2回: 通信の安全を確認する。 「情報社会の安全と倫理」第3回: 悪意のソフトウェアからPCを守る。 「情報社会の安全と倫理」第4回: 社会における情報セキュリティの問題と対応方法を知る。</p> |

| | | |
|--|-----|---|
| (5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの | 2-1 | 「データリテラシー基礎」第1回：インターネット上から統計データを検索・取得する。Excel上で統計データを変換して読み込む。 「データリテラシー基礎」第2回：グラフの要素を編集する。適切なグラフの形式を選択する。 「データリテラシー基礎」第3回：適切な表の形式を選択する。統計データから代表値を算出する。統計データを組み合わせる。 |
| | 2-2 | 「データリテラシー基礎」第1回：インターネット上から統計データを検索・取得する。Excel上で統計データを変換して読み込む。 「データリテラシー基礎」第2回：グラフの要素を編集する。適切なグラフの形式を選択する。 「データリテラシー基礎」第6回：自分の意見・判断をプレゼンテーションする。 「総合文化データサイエンス」第5回：人文科学とデータ「面倒なことはソフトウェアにやらせよう」(データの可視化、データ解析) |
| | 2-3 | 「データリテラシー基礎」第1回：データを扱うBYOD PCの環境を整備する。Excel上で統計データを変換して読み込む。 「データリテラシー基礎」第3回：適切な表の形式を選択する。統計データから代表値を算出する。統計データを組み合わせる。 「データリテラシー基礎」第4回：プレゼンテーションを設計する。ExcelとPowerPointを組み合わせる。 「総合文化データサイエンス」第4回：人文科学とデータ「偏差値ってどうやって計算してるの」(基本統計量、分布) 「総合文化データサイエンス」第6回：人文科学とデータ「私は本当に学力が向上したのか？」(相関、検定) |

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

| |
|--|
| 自分のPCを適切に管理して、その意味を説明できる。 情報システムが関わる社会問題とそれへの対応方法を説明できる。 データ利活用のために自分のPCを適切に管理し利用する。 目的に応じてデータを検索・取得・整理・活用できる。 データを適切に分析・解釈し、データを根拠として事実や意見を他人に説明できる。 データ・AI利活用の技術が、どのようなもので、社会でどのように活用されているかを説明できる データ・AI利活用がもつ負の問題・課題を説明でき、その解決案を提案できる。 データ・AI利活用がどのように展開されるべきか検討できる。 データ・AI利活用の技術の基本を演習できる。 |
|--|

| | |
|--------|--------------------------|
| 大学等名 | 清泉女子大学 |
| プログラム名 | 清泉女子大学データサイエンス・AI教育プログラム |

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

地球市民学部 地球市民学科

- ③ 修了要件
プログラムを構成する「情報社会の安全と倫理」「データリテラシー基礎」「データと社会」の必修科目3科目4単位を修得すること。

必要最低単位数 4 単位 履修必須の有無 令和7年度までに履修必須とする計画

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-6 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-6 |
|------------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 情報社会の安全と倫理 | 1 | ○ | ○ | | | | | | |
| データと社会 | 2 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-2 | 1-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-2 | 1-3 |
|--------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| データと社会 | 2 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-4 | 1-5 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-4 | 1-5 |
|--------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| データと社会 | 2 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 3-1 | 3-2 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 3-1 | 3-2 |
|------------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| 情報社会の安全と倫理 | 1 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| データと社会 | 2 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

- ⑧ 「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 |
|------------|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|
| データリテラシー基礎 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| データと社会 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 選択項目 | 授業科目 | 選択項目 |
|------|------|------|------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

⑩ プログラムを構成する授業の内容

| 授業に含まれている内容・要素 | | 講義内容 |
|--|-----|---|
| (1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄り添っているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている | 1-1 | <p>「情報社会の安全と倫理」第1回:「情報社会の安全と倫理」の意味を確認する。 「情報社会の安全と倫理」第3回: 悪意のソフトウェアからPCを守る。 「情報社会の安全と倫理」第5回: 個人情報、IoT、ビッグデータの扱いと責任論を考える。 「データと社会」第1回: AIの基礎: 学習の仕組み・社会の動向・Teachable Machineを使ったワーク</p> |
| | 1-6 | <p>「データと社会」第1回: AIの基礎: 学習の仕組み・社会の動向・Teachable Machineを使ったワーク 「データと社会」第2回: AI活用の留意点: 画像認識AIの概要・大規模画像データ・倫理的問題・著作権上の問題・画像生成AIを使ったワーク 「データと社会」第7回: データの基礎および可視化の基本: データの種類と可視化の基本を理解する</p> |
| (2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの | 1-2 | <p>「データと社会」第4回: データを読むための基礎: 平均値、中央値、分散、標準偏差、偏差値 「データと社会」第6回: データ分析の流れ: なぜデータ分析なのか、また、どのように行っていくのか</p> |
| | 1-3 | <p>「データと社会」第3回: 生成AIの利活用: 生成AIの概要・生成AIに関する社会の動向・生成AIを使ったワーク 「データと社会」第5回: ExcelからExploratoryへ: 第4回で扱った内容をExploratoryを操作して可視化する</p> |
| (3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの | 1-4 | <p>「データと社会」第3回: 生成AIの利活用: 生成AIの概要・生成AIに関する社会の動向・生成AIを使ったワーク 「データと社会」第6回: データ分析の流れ: なぜデータ分析なのか、また、どのように行っていくのか 「データと社会」第8回: 分布の可視化</p> |
| | 1-5 | <p>「データと社会」第2回: AI活用の留意点: 画像認識AIの概要・大規模画像データ・倫理的問題・著作権上の問題・画像生成AIを使ったワーク 「データと社会」第3回: 生成AIの利活用: 生成AIの概要・生成AIに関する社会の動向・生成AIを使ったワーク</p> |
| (4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする | 3-1 | <p>「情報社会の安全と倫理」第4回: 社会における情報セキュリティの問題と対応方法を知る。 「情報社会の安全と倫理」第5回: 個人情報、IoT、ビッグデータの扱いと責任論を考える。 「データと社会」第2回: AI活用の留意点: 画像認識AIの概要・大規模画像データ・倫理的問題・著作権上の問題・画像生成AIを使ったワーク</p> |
| | 3-2 | <p>「情報社会の安全と倫理」第2回: 通信の安全を確認する。 「情報社会の安全と倫理」第3回: 悪意のソフトウェアからPCを守る。 「情報社会の安全と倫理」第4回: 社会における情報セキュリティの問題と対応方法を知る。 「データと社会」第2回: AI活用の留意点: 画像認識AIの概要・大規模画像データ・倫理的問題・著作権上の問題・画像生成AIを使ったワーク</p> |

| | | |
|--|-----|--|
| (5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの | 2-1 | 「データリテラシー基礎」第1回：インターネット上から統計データを検索・取得する。Excel上で統計データを変換して読み込む。 「データリテラシー基礎」第2回：グラフの要素を編集する。適切なグラフの形式を選択する。 「データリテラシー基礎」第3回：適切な表の形式を選択する。統計データから代表値を算出する。統計データを組み合わせる。 「データと社会」第4回：データを読むための基礎：平均値、中央値、分散、標準偏差、偏差値 |
| | 2-2 | 「データリテラシー基礎」第1回：インターネット上から統計データを検索・取得する。Excel上で統計データを変換して読み込む。 「データリテラシー基礎」第2回：グラフの要素を編集する。適切なグラフの形式を選択する。 「データリテラシー基礎」第6回：自分の意見・判断をプレゼンテーションする。 「データと社会」第5回：ExcelからExploratoryへ：第4回で扱った内容をExploratoryを操作して可視化する |
| | 2-3 | 「データリテラシー基礎」第1回：データを扱うBYOD PCの環境を整備する。Excel上で統計データを変換して読み込む。 「データリテラシー基礎」第3回：適切な表の形式を選択する。統計データから代表値を算出する。統計データを組み合わせる。 「データリテラシー基礎」第4回：プレゼンテーションを設計する。ExcelとPowerPointを組み合わせる。 「データと社会」第6回：データ分析の流れ：なぜデータ分析なのか、また、どのように行っていくのか 「データと社会」第12回：テキストデータの可視化 |

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

自分のPCを適切に管理して、その意味を説明できる。
 情報システムが関わる社会問題とそれへの対応方法を説明できる。
 データ利活用のために自分のPCを適切に管理し利用する。
 目的に応じてデータを検索・取得・整理・活用できる。
 データを適切に分析・解釈し、データを根拠として事実や意見を他人に説明できる。
 データ・AI利活用の技術が、どのようなもので、社会でどのように活用されているかを説明できる
 データ・AI利活用がもつ負の問題・課題を説明でき、その解決案を提案できる。
 データ・AI利活用がどのように展開されるべきか検討できる。
 データ・AI利活用の技術の基本を演習できる。

シラバス参照

| | |
|-----------|--------------------|
| 科目 | 情報社会の安全と倫理 (1) クラス |
| 開講科目群 | 基幹・スタンダード |
| 履修 | 必修 |
| 年次 | 1年次 |
| 単位 | 1 |
| 開講科目ID | CSS10401 |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 2時限 |
| 教職課程との対応 | |
| 教員氏名 | 福田 健(フクダ タケン) |
| 備考 | (1) クラス |

| | |
|--|---|
| 授業テーマ Course Theme | 自分の情報環境を社会の中で適切に認識して管理して活用の可能性を広げる。 |
| 授業概要 Course Outline | この授業では、BYOD PCやスマートホンを初めとする日常を取り巻く情報環境の設定・利用に際して発信される情報と制御される内容を把握して、それらの影響を考え、さらに、それらを適切に制御する方法を学ぶ。 また、社会で活用されるAI・データサイエンスについて、そのありようや背後の仕組みを知り、自分の生活や未来との関わりを考える。 この授業科目は「数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」(リテラシーレベル)を構成する科目である。その詳細は、学生要覧のMDASH科目の欄を参照すること。 |
| 学生が授業内で PCを使用する 科目 | yes |
| 実務経験のある 教員による科目 | yes |
| 実務経験との 関連 (経験ありの場合のみ) | 民間教育機関における教科指導と教材開発 |
| 英語で授業を 行う科目 Whether this class will be conducted all in English (yes/no) | no |
| 課題解決型学習を取り入れて いる科目 Problem- solving learning method is used in class (yes/no) | no |
| 討議(ディス カッション、デ ベート)を取り 入れている科目 There are discussions/ debates in class (yes/ no) | no |
| グループワー クを取り入れて いる科目 There are group works in class (yes/no) | no |
| 発表(プレゼン テーション)を 取り入れている 科目 There are presentations in class (yes/no) | no |
| フィールドワー ク、実習、実 験、実技を取り 入れている科 | yes |

| | |
|--|---|
| 目 There are fieldworks/ training/ experiments/ practices in class (yes/no) | |
| 到達目標 Aim/goal | 自分のPCを適切に管理して、その意味を説明できる。 情報システムが関わる社会問題とそれへの対応方法を説明できる。 |
| 授業計画 Course Plan | <p>第1回 「情報社会と安全と倫理」の意味を確認する。 BYOD PCの設定を確認する。</p> <p>第2回 通信の安全を確認する</p> <p>第3回 悪意のソフトウェアからPCを守る。</p> <p>第4回 社会における情報セキュリティの問題と対応方法を知る。</p> <p>第5回 個人情報、IoT、ビッグデータの扱いと責任論を考える。</p> <p>第6回 数量スキルの診断テストとその解説。 まとめと振り返り。</p> <p>第7回 期末試験の内容予告と実施。</p> |
| 授業以外の学修 What Students are expected to do outside of the class | 授業時間内に行われた小テストの内容を確認する。 欠席した場合には、授業のWebページにある配布資料や教材ビデオを閲覧し、提出可能な課題への取り組みや課題の解説を確認する。 自分のBYOD PCに対して設定内容を確認したり変更したりしてその影響を確認する。 |
| 評価方法 Evaluation | 授業への参加(授業時間内に回答するアンケート/小テストを含む):20% 期末授業:80% |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 Feedback methods on assignments | 学びの泉内の解説による。 |
| 履修前要件 Prerequisites | 「情報環境の構築」を、同時並行して履修するか、単位修得しているか、単位認定されていること。 Windows PCを持参して授業に参加すること。(Macは不可) |
| 関連するディプロマポリシー | |
| 使用テキスト Textbook to be used, if any | |
| 必ず読まなければならない本や文献(購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト) Required books or materials (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.) | |
| 読むことを推奨する本や文献(購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト) Recommended books or materials, if any. (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.) | |
| テキストに関する連絡事項 Remarks concerning the text book, if any | |
| 更新日付 | 2026/01/11 16:28 |

シラバス参照

| | |
|-----------|--------------------|
| 科目 | データリテラシー基礎 (1) クラス |
| 開講科目群 | 基幹・外語 |
| 履修 | 必修 |
| 年次 | 1年次 |
| 単位 | 1 |
| 開講科目ID | CSS10351 |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 月曜日 4時限 |
| 教職課程との対応 | |
| 教員氏名 | 福田 健(フクダ タケシ) |
| 備考 | (1) クラス |

| | |
|--|--|
| 授業テーマ Course Theme | 適切に設定されたBYOD PCを活用して、実社会のデータを表現したり変換したりするとともに、それを活用して問題解決したり判断したりするためのスキルを身につける。 |
| 授業概要 Course Outline | データ活用のための基本スキルとして、データの整理、表からグラフの変換、グラフ種類の選択、データと主張との関係、などを、社会の実統計データを用いて学ぶ。これらは、文科系の学びや社会活動の中でも必要とされるデータリテラシーである。 この授業科目は「数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」(リテラシーレベル)を構成する科目である。その詳細は、学生要覧のMDASH科目の欄を参照すること。 |
| 学生が授業内で PCを使用する 科目 | yes |
| 実務経験のある 教員による科目 | nos |
| 実務経験との 関連 (経験ありの場合のみ) | |
| 英語で授業を 行う科目 Whether this class will be conducted all in English (yes/no) | no |
| 課題解決型学習を取り入れて いる科目 Problem- solving learning method is used in class (yes/no) | yes |
| 討議(ディス カッション、デ ベート)を取り 入れている科目 There are discussions/ debates in class (yes/ no) | no |
| グループワー クを取り入れて いる科目 There are group works in class (yes/no) | yes |
| 発表(プレゼン テーション)を 取り入れている科目 There are presentations in class (yes/no) | yes |
| フィールドワー ク、実習、実 験、実技を取り 入れている科目 | yes |

| | |
|--|---|
| There are fieldworks/ training/ experiments/ practices in class (yes/no) | |
| 到達目標 Aim/goal | 自分のPCを用いて必要なデータを検索・取得・整理・活用できる。 自分のPC上でデータを参照しながら事実や意見を他人に説明できる。 |
| 授業計画 Course Plan | <p>第1回 統計データを扱うBYOD PCの環境を整備する。 インターネット上から統計データを検索・取得する。 Excel上で統計データを変換して読み込む。 Excel上の統計データを適切な形式で保存する。 統計データをグラフ化する。</p> <p>第2回 グラフの要素を編集する。 適切なグラフの形式を選択する。</p> <p>第3回 適切な表の形式を選択する。 統計データから代表値を算出する。 統計データを組み合わせる。</p> <p>第4回 プレゼンテーションを設計する。 ExcelとPowerPointを組み合わせる。 各クラスごとのトピック。</p> <p>第5回 各クラスごとのトピック。 自分の判断・意見をプレゼンテーションする(1)。</p> <p>第6回 自分の判断・意見をプレゼンテーションする。 まとめと振り返り。</p> <p>(後期開始時までにオンデマンドビデオで配信開始:授業0.5回分) 第7回 データサイエンスの概要と「清泉女子大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の構成を学ぶ。 この授業に向けてBYOD PCの環境を設定する。</p> |
| 授業以外の学修 What Students are expected to do outside of the class | <ul style="list-style-type: none"> ・Excelの基本(関数、絶対参照/相対参照など)、 ・統計計算の基礎事項(平均値、分散・偏差、四分位偏差、中央値、最頻値など)、 ・グラフ種類(積み重ねグラフ、箱ひげ図、散布図など)の選択と使い方、 <p>などが、この授業の前提知識・前提スキルとして求められる。これらを十分に学べていない場合は、別授業後期「数量リテラシー」を履修しなければならぬ。別授業の前期「情報社会の安全と倫理」の授業時に数量スキルの基礎テストが実施され、結果が夏期休業期間初めに個人別に通知されるので、そこで後期「数量リテラシー」の履修を指示された場合は、必ずそれに従って後期「数量リテラシー」を履修登録して単位修得すること。</p> <p>以上の詳細については学生要覧のMDASH科目の欄を確認すること。</p> <p>また、後期「数量リテラシー」を履修するか否かに関わらず、この授業で扱う実習課題の一部は、授業時間外に行うことが求められる。欠席時には授業のWebページ(学びの泉)を閲覧してその内容に従うこと。</p> |
| 評価方法 Evaluation | <p>授業への出席と授業時間内の実習への取り組み 50%</p> <p>授業期間中および授業期間末の実習課題の成果 50%</p> <p>ただし、後期「数量リテラシー」の履修登録を指示されてそれを履修した者については、その授業内で指示された課題への取り組みが、評価比率50%を上限として加算されることがある。</p> |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 Feedback methods on assignments | 授業時間中の発表に対するコメント、および、学びの泉を通して個別連絡、のいずれか、または、両方によって行う。 |
| 履修前提要件 Prerequisites | 前期「情報環境の構築」または夏季集中「情報環境の構築」の単位を修得していないと、この授業は履修できない(履修登録が抹消される)。 |
| 関連するディプロマポリシー | |
| 使用テキスト Textbook to be used, if any | |
| 必ず読まなければならない本や文献(購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト) Required books or materials (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.) | |
| 読むことを推奨する本や文献(購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト) Recommended books or materials, if any. (No purchase necessary, but students need to refer to | |

| | |
|--|---|
| them at places like libraries.) | |
| テキストに関する連絡事項 Remarks concerning the text book, if any | 学びの泉内の、 ・「スタートアップゼミナール」情報科学編のページ ・情報科学科目共通 ・「データリテラシー基礎」クラス別のページ |
| 更新日付 | 2026/01/11 16:27 |

シラバス参照

| | |
|-----------|---|
| 科目 | 総合文化データサイエンス (1) クラス |
| 開講科目群 | 総文 |
| 履修 | 必修 |
| 年次 | 2年次 |
| 単位 | 2 |
| 開講科目ID | HSC20001 |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 月曜日 2時限 |
| 教職課程との対応 | |
| 教員氏名 | 木川 弘美(キガワ ヒロミ) 木村 琢也(キムラ タクヤ) 鈴木 卓(スズキ タカシ) 姫野 敦子(ヒメノ アツコ) |
| 備考 | (1) クラス |

| | |
|---|---|
| 授業テーマ Course Theme | 社会や学術分野におけるデータ・AIの利活用の現状とその展開 |
| 授業概要 Course Outline | データ・AI利活用の技術は、個人生活や社会活動を支える情報基盤となるだけでなく、さまざまな学術分野においても近年いっそう進歩し一般化している。そうしたなかでデータ・AIを利活用していくためには、社会・学術に関わるどのような問いかけにどのような目的・方法でその利用がされているか、また有効なのかを学び考えていく必要がある。この授業では、本学で学べる学術分野の中から、人文科学一般、言語、文学、文化史の分野におけるデータ・AI利活用の姿を学び検討していく。この授業科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(リテラシーレベル)を構成する科目である。2022年度以後入学者が、この授業科目とあわせて2022年度以後開講の「情報科学入門2」「情報科学入門1b」の単位を修得することで、左記教育プログラムを修得したことを示すことができる。 |
| 学生が授業内でPCを使用する科目 | yes |
| 実務経験のある教員による科目 | no |
| 実務経験との関連 (経験ありの場合のみ) | |
| 英語で授業を行う科目 Whether this class will be conducted all in English (yes/no) | no |
| 課題解決型学習を取り入れている科目 Problem-solving learning method is used in class (yes/no) | yes |
| 討議(ディスカッション、ディベート)を取り入れている科目 There are discussions/debates in class (yes/no) | yes |
| グループワークを取り入れている科目 There are group works in class (yes/no) | yes |

| | |
|---|---|
| 発表(プレゼンテーション)を取り入れている科目 There are presentations in class (yes/no) | yes |
| フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている科目 There are fieldworks/training/experiments/practices in class (yes/no) | no |
| 到達目標 Aim/goal | 社会・学術分野で活用されているデータの種類がどのようなものか説明できる データ・AIに関わるどのような技術が社会・学術分野で活用されているか説明できる データ・AIが社会・学術分野のどのような領域や目的で活用されているか説明できる 社会・学術分野で具体的にどのような場面・方法でデータ・AIが活用されているか説明できる 社会・学術分野でのデータ・AI利活用の最新の動向について説明できる 上記のデータ・AIの利用の一部を実際に自分でおこなうことができる |
| 授業計画 Course Plan | <p>1年次生全員を、a～dの4つのグループに分け、それぞれ異なる分野を専門とする4名の教員が順次各グループを担当する。1教員の担当回数は各3回。最初の授業(イントロダクション「現代社会とデータ・AI」)のみ各教室でZoomを繋ぎ全クラス合同で授業をおこなう。各担当教員の授業内容は以下の通り。</p> <p>【鈴木卓】 1 言語とデータ・AI「コーパスから何がわかる？」 2 言語とデータ・AI「テキストマイニングって何？」 3 言語とデータ・AI「AIを使いこなそう」</p> <p>【木村琢也】 1 人文科学とデータ「偏差値って、どうやって計算してるの？」(基本統計量、分布) 2 人文科学とデータ「面倒なことはソフトウェアにやらせよう」(データの可視化、データ解析) 3 人文科学とデータ「私は本当に学力が向上したのか？」(相関、検定)</p> <p>【姫野敦子】 1 文学とデータ・サイエンス「小説・新聞記事から見るAI」 2 文学とデータ・サイエンス「短歌・俳句を探す・作る」 3 文学とデータ・サイエンス「AIと歌謡曲」</p> <p>【木川弘美】 1 文化史とデータ・サイエンス「データベース活用入門:VR美術館体験！」 2 文化史とデータ・サイエンス「AIやデータベースを使って美術史を学んでみよう」 3 文化史とデータ・サイエンス「デジタルとアナログを融合させて学びを深めてみよう」</p> |
| 授業以外の学修 What Students are expected to do outside of the class | 各回の授業後にPCを活用した演習や情報検索、課題への取組が必要である |
| 評価方法 Evaluation | 授業への出席と授業内学習活動への取り組み 50%、課題 50%を原則とし、総合的に判断する。 |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 Feedback methods on assignments | 教員が授業内または授業後(返却時)にコメントする。 |
| 履修前提要件 Prerequisites | 自分のPCの基本的操作に慣れていること 自分のPCでエクセルを使用できること 自分のPCにソフトウェア(エディター)をインストールできること |
| 関連するディプロマポリシー | |
| 使用テキスト Textbook to be used, if any | |
| 必ず読まなければならない本や文献(購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト)Required books or materials (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.) | |
| 読むことを推奨する本や文献(購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテ | |

| | |
|--|------------------|
| キスト) Recommended books or materials, if any. (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.) | |
| テキストに 関する 連絡事項 Remarks concerning the text book, if any | |
| 更新日付 | 2026/01/14 10:02 |

シラバス参照

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 科目 | データと社会 (1) グループ |
| 開講科目群 | 地学 |
| 履修 | 必修 |
| 年次 | 2年次 |
| 単位 | 2 |
| 開講科目ID | GCU20001 |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 2時限 |
| 教職課程との対応 | |
| 教員氏名 | 山本 達也(ヤマモト タツヤ) 安藤 祐介(アンドウ ユウスケ) |
| 備考 | (1) グループ |

| | |
|--|---|
| 授業テーマ Course Theme | データサイエンスおよびAIと社会に関する基礎的な概念の理解をした上で、データサイエンス用ソフトウェア (Exploratory) の操作方法を習得する。 |
| 授業概要 Course Outline | <p>本講義では、データサイエンスおよびAIと社会に関する基礎的な概念を理解すると共に、データを用いた判断や意思決定を行うための分析ツール (Exploratory) の基礎的な操作を習得することを目指していく。</p> <p>講義は、統計的な知識を特に有さない学生でも到達目標をクリアできるように設計し、高度な数式などを用いることなく概念理解できるよう組み立てている。事前の前提知識は問われない。数字に対して「苦手意識」がある学生もいるかもしれないが、過度に構えることなく、「新しい言語 (新しい外国語)」を習得するような気持ちで取り組んでもらいたい。</p> <p>本講義は、いわゆる「反転授業」に近い形態で行われる。毎回の講義に際しては、事前にその週のテーマと課題について解説した詳細なスライドを用意している。講義前に、一通り、スライドを見ながら「予習」をし、データサイエンス用のソフトウェアも動かしながら課題に取り組んでもらう。</p> <p>講義では、担当教員が、同じスライドを使いながら解説を行いつつ、LS (ラーニング・サポーター) の補助も得ながらも一度同じ課題に取り組んでもらう。疑問点や理解が難しかった部分については、授業内にフォローしていく形態をとる。授業後には、各自の理解度を確認する意味も込めて、「事後課題」が提示される。理解を深め、定着させるためにも、積極的に取り組んでもらいたい。</p> |
| 学生が授業内で PCを使用する 科目 | yes |
| 実務経験のある 教員による科 目 | no |
| 実務経験との 関連 (経験ありの場合のみ) | |
| 英語で授業を 行う科目 Whether this class will be conducted all in English (yes/no) | no |
| 課題解決型学 習を取り入れ ている科目 Problem- solving learning method is used in class (yes/no) | no |
| 討議 (ディス カッション、デ ベート) を取り 入れている科 目 There are discussions/ debates in class (yes/ no) | yes |
| グループワー クを取り入れて いる科目 There are group works in class (yes/no) | yes |
| 発表 (プレゼン テーション) を 取り入れている 科目 | no |

| | |
|---|---|
| There are presentations in class (yes/no) | |
| フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている科目 There are fieldworks/training/experiments/practices in class (yes/no) | yes |
| 到達目標 Aim/goal | <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータやAIの活用に関する事例を通して基礎的な理解を行った上で、これらが抱える課題について議論することができる。 ・データリテラシー(情報や知識を活用する能力)の基礎を理解する。 ・データサイエンスに関する基礎的な概念を理解する。 ・データサイエンス用のソフトウェアを使い、データの可視化を理解し、データの加工ができるようになる。 |
| 授業計画 Course Plan | <p>第1回 AIの基礎:学習の仕組み・社会の動向・Teachable Machineを使ったワーク</p> <p>第2回 AI活用の留意点:画像認識AIの概要・大規模画像データ・倫理的問題・著作権上の問題・画像生成AIを使ったワーク</p> <p>第3回 生成AIの利活用:生成AIの概要・生成AIに関する社会の動向・生成AIを使ったワーク</p> <p>第4回 データを読むための基礎:平均値、中央値、分散、標準偏差、偏差値</p> <p>第5回 ExcelからExploratoryへ:第4回で扱った内容をExploratoryを操作して可視化する</p> <p>第6回 データ分析の流れ:なぜデータ分析なのか、また、どのように行っていくのか</p> <p>第7回 データの基礎および可視化の基本:データの種類と可視化の基本を理解する</p> <p>第8回 分布の可視化</p> <p>第9回 相関の可視化</p> <p>第10回 時系列の可視化</p> <p>第11回 データの加工の基礎</p> <p>第12回 テキストデータの可視化</p> <p>第13回 エキササイズ</p> |
| 授業以外の学修 What Students are expected to do outside of the class | <p>本講義は、いわゆる「反転授業」の手法をベースに行われる。各回のテーマ解説と具体的なソフトウェアの操作方法などは、詳細なスライド(PDFファイル)にまとめてある。これらスライドは、Googleクラスルーム等を使って、事前にダウンロードできるように設定する。</p> <p>履修学生は、授業開始までに、該当するスライドを用いて、「授業前の予習」(2時間)をしておくことが求められる。設定されている課題についても、ソフトウェアの操作方法スライドを活用して、一度自分で手を動かしておくこと。また、自習では理解が難しかった部分などを、メモしておくこと(授業時間中に教員やTAが解説を行う)。</p> <p>授業後には、それぞれの回のテーマに則した「確認用課題」(1時間半)が用意してある。課題に取り組み、得られた回答や解釈を、Googleクラスルーム等を使って提出すること。</p> |
| 評価方法 Evaluation | 事前課題への取り組み、授業内での課題への取り組み等の平常点(60%)、授業後に課せられる「確認用課題」への取り組み状況と理解度(40%)の総合評価とする。 |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 Feedback methods on assignments | 各課題へのフィードバックは、授業内及びGoogleクラスルーム等を通じて、適宜行われる。 |
| 履修前提要件 Prerequisites | 履修者は、前期授業開始前に、指示に従って自分のPCにExploratoryのインストールと必要なデータセットを取り込んでおく必要がある。 |
| 関連するディプロマポリシー | GDP1、GDP4 |
| 使用テキスト Textbook to be used, if any | |
| 必ず読まなければならない本や文献(購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト)Required books or materials (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.) | |

| | |
|--|-------------------------|
| <p>読むことを推奨する本や文献(購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト) Recommended books or materials, if any. (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.)</p> | |
| <p>テキストに関する連絡事項 Remarks concerning the text book, if any</p> | |
| <p>更新日付</p> | <p>2026/01/14 10:03</p> |

学生要覧

2026

令和8年度



清泉女子大学

総合文化学部・地球市民学部

大学院

目次

| | | | |
|------------------------|----|---------------------------|-----|
| 2026(令和8)年度 学年暦・学事日程 | 2 | 2. 修了要件、履修の手続き(修士・博士課程共通) | 90 |
| 建学の精神、教育の目標 | 7 | 3. 授業(修士・博士課程共通) | 91 |
| 学籍 | 13 | 4. 試験、成績の評価(修士・博士課程共通) | 92 |
| 1. 学籍(学部) | 14 | 5. 修士課程の研究指導、修士論文 | 93 |
| 2. 学籍(大学院) | 18 | 6. 博士課程の研究指導、博士論文 | 96 |
| 学生生活 | 23 | 7. 修了の判定 | 98 |
| 1. 開校時間、授業時間、事務取扱時間、事務 | 24 | 8. 修士課程言語文化専攻 履修要項 | 99 |
| 2. 施設・設備の利用 | 29 | 9. 修士課程思想文化専攻 履修要項 | 100 |
| 3. 学生支援・学生相談 | 32 | 10. 修士課程地球市民学専攻 履修要項 | 101 |
| 4. 奨学金制度、生活支援 | 34 | 11. 博士課程人文学専攻 履修要項 | 102 |
| 5. クラブ活動・学生の活動 | 38 | 12. 教員免許状 | 103 |
| 6. 緊急事態 | 42 | 規程 | 105 |
| 7. キャリア形成、進路・就職の支援 | 43 | 1. 学部関係諸規程 | 106 |
| 8. 個人情報保護、その他 | 45 | 2. 大学院関係諸規程 | 115 |
| 履修(学部) | 47 | 組織 | 125 |
| 1. 履修の基本 | 48 | 施設案内図 | 129 |
| 2. 履修の手続き | 51 | | |
| 3. 授業 | 54 | | |
| 4. 試験 | 55 | | |
| 5. 成績評価 | 57 | | |
| 6. 国外留学、海外研修、国内留学 | 60 | | |
| 履修要項(学部) | 63 | | |
| 1. 基幹教育 | 64 | | |
| 2. 総合文化学部 総合文化学科 | 70 | | |
| 3. 地球市民学部 地球市民学科 | 73 | | |
| 4. 諸課程 教職課程 | 75 | | |
| 5. 諸課程 司書教諭課程 | 78 | | |
| 6. 諸課程 司書課程 | 79 | | |
| 7. 諸課程 学校司書課程 | 81 | | |
| 8. 諸課程 学芸員課程 | 82 | | |
| 9. 諸課程 日本語教員課程 | 83 | | |
| 履修要項(大学院) | 85 | | |
| 1. 大学院各専攻の設置の趣旨・目的等 | 89 | | |

1 基幹教育

基幹教育科目の履修

総合文化学科、地球市民学科の学生は、下の「基幹教育科目 履修の構造」にしたがって修得しなければならない。

表 1-1～3 における「年次」は、履修を推奨する学年を表す。「年次」欄に記載された年次より上の学年も、当該科目を履修することは可能である。

表に書かれている単位数以上の単位を修得の場合、それらの単位は、自由選択(49 ページ)として、卒業に必要な単位数に数えることができる。

| | | ● 基幹教育科目 履修の構造 ● | | | |
|----------|--------------------|----------------------|------|-----|-----|
| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
| 清泉スタンダード | 必修 | 12 単位 | 6 単位 | | |
| 必修外国語 | 必修 | 4 単位(総文) 6 単位(地民) | 2 単位 | | |
| 教養 | 選択 | 14 単位以上 | | | |
| 選択外国語 | 選択必修(総文) 選択(地民) | 2 単位(総文) 自由に選択 | | | |

清泉スタンダード

◆卒業要件

- 表 1-1 の必修科目を 18 単位修得している。

清泉スタンダードはすべて必修科目である。表 1-1 の科目を 18 単位修得する。

- 「人間論」は大学が指定したクラスを履修する。自分のクラスは、冊子『開講科目一覧・授業時間割』で確認する。
- 「キリスト教学 I」「キリスト教学 II」は複数クラス開講する。そのうち 1 クラスを自分で選んで履修する。
- 「スタートアップ・ゼミナール」は入学後のガイダンス期間中に開講する。大学が指定したクラスを履修する。自分のクラスは、ガイダンス期間中に配布する資料で確認する。
- 「初年次ゼミナール」は大学が指定したクラスを履修する。自分のクラスは、ガイダンス期間中に配布する資料で確認する。
- 「情報環境の構築」「データリテラシー基礎」「情報社会の安全と倫理」は大学が指定したクラスを履修する。自分のクラスは、ガイダンス期間中に配布する資料で確認する。
- 「キャリアデザイン I」は、大学が指定したクラスを履修する。自分のクラスは、ガイダンス期間中に配布する資料および冊子『開講科目一覧・授業時間割』で確認する。
- 「スペイン語の世界」は、大学が指定したクラスを履修する。自分のクラスは、2 年次はじめてのガイダンス期間中に配布する資料および冊子『開講科目一覧・授業時間割』で確認する。
- 「健康・安全管理」は、大学が指定したクラスを履修する。自分のクラスは、ガイダンス期間中に配布する資料および冊子『開講科目一覧・授業時間割』で確認する。

表 1-1 清泉スタンダード

| 履修 | 分野 | 年次 | 科目名 | 単位 |
|----------|--------|----|---------------|-----|
| 必修 | 建学の精神 | 1 | 人間論 | 2 |
| | | 2 | キリスト教学 I, II | 各 2 |
| | 学びのスキル | 1 | スタートアップ・ゼミナール | 1 |
| | | 1 | 初年次ゼミナール | 2 |
| | 情報科学 | 1 | 情報環境の構築 | 1 |
| | | 1 | データリテラシー基礎 | 1 |
| | | 1 | 情報社会の安全と倫理 | 1 |
| | 人間・社会 | 1 | キャリア・デザイン I | 2 |
| | | 2 | スペイン語の世界 | 2 |
| | 心身の健康 | 1 | 健康・安全管理 | 2 |
| 修得する単位合計 | | | | 18 |

表 1-6 選択外国語

| 区分 | 年次 | 科目名 | 単位 |
|--------|-----|--|-----|
| 選択必修 | 1~4 | English Skills Workshop (Extensive Reading) a, b | 各 2 |
| | | English Skills Workshop (Active Skills for Communication) a, b | 各 2 |
| | | English Skills Workshop (Academic Listening) | 2 |
| | | English Skills Workshop (Advanced Academic Listening) | 2 |
| | | English Skills Workshop (Academic Writing) | 2 |
| | | キャリアに活かす英語 (TOEIC 対応) 初級 a ^{注2} , b ^{注2} | 各 2 |
| | | キャリアに活かす英語 (TOEIC 対応) 中級 a ^{注2} , b ^{注2} | 各 2 |
| | | キャリアに活かす英語 (TOEIC 対応) 上級 a ^{注2} , b ^{注2} | 各 2 |
| | | キャリアに活かす英語 (英検対応) a ^{注2} , b ^{注2} | 各 2 |
| | | TOEIC 対策講座 Pre-intermediate a ^{注1} , b ^{注1} | 各 2 |
| | | TOEIC 対策講座 Intermediate a ^{注1} , b ^{注1} | 各 2 |
| | | TOEIC 対策講座 Advanced a ^{注1} , b ^{注1} | 各 2 |
| | | 留学準備 TOEFL-ITP 対策講座 a, b | 各 2 |
| | | 留学準備 TOEFL S&W 対策講座 | 2 |
| | | 留学準備 IELTS 対策講座 a, b | 各 2 |
| | | 英検対策講座 a ^{注1} , b ^{注1} | 各 2 |
| | | Business Communication | 2 |
| | | Current Issues: SDGs a, b | 各 2 |
| | | フランス語入門 | 2 |
| | | フランス語初級 | 2 |
| ドイツ語入門 | 2 | | |
| ドイツ語初級 | 2 | | |
| 中国語入門 | 2 | | |

| 区分 | 年次 | 科目名 | 単位 |
|----------|-----|----------|------|
| 選択必修 | 1~4 | 中国語初級 | 2 |
| | | 朝鮮・韓国語入門 | 2 |
| | | 朝鮮・韓国語初級 | 2 |
| | | イタリア語入門 | 2 |
| | | イタリア語初級 | 2 |
| | | ロシア語入門 | 2 |
| | | ロシア語初級 | 2 |
| | | ギリシア語入門 | 2 |
| | | ギリシア語初級 | 2 |
| | | ラテン語入門 | 2 |
| | | ラテン語初級 | 2 |
| 修得する単位合計 | | | 2 以上 |

注 1:2025 (令和 7) 年度まで開講

注 2:2026 (令和 8) 年度より開講

日本語

| 区分 | 年次 | 科目名 | 単位 |
|------|-----|--|-----|
| 選択必修 | 1~4 | 日本語中級 Ia, Ib, IIa, IIb, IIIa, IIIb, IVa, IVb | 各 2 |
| | | 日本語上級文法 a, b | 各 2 |
| | | 日本語上級読解 a, b | 各 2 |
| | | 日本語上級会話 a, b | 各 2 |
| | | 日本語上級総合 a, b | 各 2 |

4. 正当な理由がないまま P/A Test を受験しなかった学生は、必修外国語の履修が認められないことがある。正当な理由は、追試験願い出 (55 ページ) の理由に準ずる。

5.2. の②と 3. の②の P/A Test の受験は、必修外国語の成績の 10% に組み込まれる。

清泉女子大学データサイエンス・AI教育プログラム (清泉MDASHプログラム)

MDASH とは、Mathematics, Data science and AI Smart Higher education の略で、大学等における「数理・データサイエンス・AI の教育」を意味する。本学では、2022 (令和 4) 年度以後入学者が所定の科目を履修して単位習得することにより、文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」のカリキュラムを満たす教育を受けたと認定される。以下では、本学におけるこのカリキュラムを「清泉 MDASH プログラム」と記す。

清泉MDASHプログラムの位置付け

- 清泉 MDASH プログラムは、清泉スタンダードの情報科学科目と、総合文化学部・地球市民学部の専門科目から構成されている (表 1-7, 1-8)。
- MDASH プログラムは卒業のための必修科目で構成されているので、すべての学生が MDASH プログラムを修得する。
- 入学時と「情報社会の安全と倫理」の授業内で行う数学基礎力テストの結果、数量的な処理に関する基礎力を補完すべきと診断された学生は、基幹教育科目「数量リテラシー」を履修する必要がある (該当学生には個別に連絡される)。

清泉MDASHプログラムの到達目標と構成

- 本プログラムの到達目標は以下のとおりである。
 - ① データを管理する PC を安全かつ使いやすい状態に保つことができる。
 - ② 様々なデータを検索・取得・操作して説明できる。

表 1-7 MDASHプログラムの科目 (総合文化学部)

| 履修 | 年次 | 科目名 | 単位 | 備考 |
|----------|----|--------------|----|----------|
| 必修 | 1 | 情報社会の安全と倫理 | 1 | 清泉スタンダード |
| | 1 | データリテラシー基礎 | 1 | |
| | 2 | 総合文化データサイエンス | 2 | 総合文化 |
| 修得する単位合計 | | | 4 | |

表 1-8 MDASHプログラムの科目 (地球市民学部)

| 履修 | 年次 | 科目名 | 単位 | 備考 |
|----------|----|------------|----|----------|
| 必修 | 1 | 情報社会の安全と倫理 | 1 | 清泉スタンダード |
| | 1 | データリテラシー基礎 | 1 | |
| | 2 | データと社会 | 2 | 地球市民 |
| 修得する単位合計 | | | 4 | |

③データ利活用・AI の基本的技術を説明できる。

④データ利活用・AI と社会問題の関りを説明できる。

2. 本プログラムは、情報機器を安全に活用するための条件を整え(心得)、それを用いて実社会のデータを検索・取得・操作しながら解
釈・表現し(基礎)、データや AI の技術が利活用される状況を知り社会への影響を考える(導入)ように構成されている。

MDASH プログラムの修了

MDASH プログラムを修了した学生には、その証明となるオープンバッジが発行される。

STEAM 科目・文理融合科目

STEAM とは、Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工
学)、Arts (芸術)、Mathematics (数学) の頭文字をつなげた造語であ
る。そして、STEAM 科目とは、それら 5 要素のうちの複数を組み合わせ
た分野横断的な内容をとり上げて、学び方として創造活動や探究活動
を中心とした授業科目を指している。

一方、文理融合科目とは、人文社会科学系の知見と自然科学系の
知見とを組み合わせ、現実世界の問題を解決するために取り組む高
等教育機関での授業科目である。したがって、STEAM 科目と文理融合
科目の間には意味的に重なる部分がある。

本学は人文社会科学系の専門知が中心のカリキュラムだが、そうした学びに自然科学系の知や活動を組み合わせることで、様々な
STEAM 科目・文理融合科目を構成できる可能性がある。

2026 年度は、表 1-9 の科目を、STEAM 科目・文理融合科目としている。これらの科目の中には、全学生が修得できる科目がある。科目
の内容についてはシラバスを参照すること。

表 1-9 STEAM科目・文理融合科目

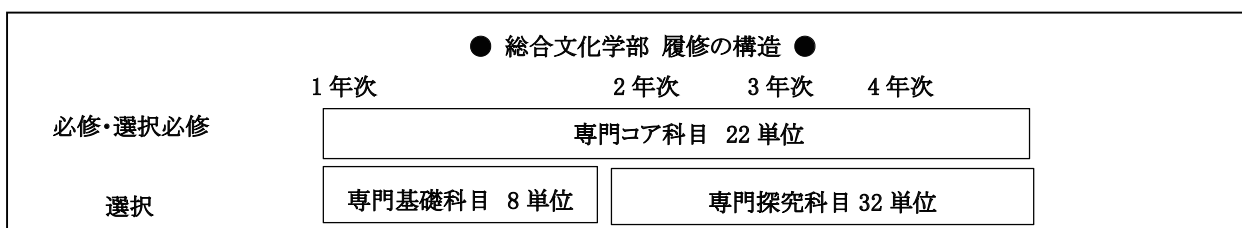
| 年次 | 科目名 | 単位 | 科目群 |
|-----|--------------|----|-------|
| 1~4 | 文理融合基礎 | 2 | 基幹:教養 |
| 2 | 総合文化データサイエンス | 2 | 総合文化 |
| 1 | 日本語データ分析入門 | 2 | 総合文化 |
| 2~3 | 死生学 | 2 | 総合文化 |
| 2~4 | 文理融合特論 | 2 | 総合文化 |
| 1~4 | データサイエンス | 2 | 地球市民 |
| 2~4 | 専門事例:地球市民と技術 | 4 | 地球市民 |

2 総合文化学部 総合文化学科

総合文化学科専門科目の履修

総合文化学科生は、表 2-1～3 にしたがって、総合文化学科専門科目の単位を、必修科目 10 単位、選択科目 52 単位以上、合計で 62 単位以上修得しなければならない。

総合文化学科の専門科目は、専門コア科目・専門基礎科目・専門探究科目の 3 つに区分される。



以下、学生が入学時に選択した領域を「自領域」、それ以外の領域を「他領域」とする。

総合文化学科の専門科目を 63 単位以上修得した場合、62 単位を超えた分は、自由選択 (49 ページ) として、卒業に必要な単位に数えることができる。

専門コア科目の履修上の注意

◆卒業要件

- 表 2-1 の必修科目を 10 単位修得している。
- 表 2-1 にしたがって、選択科目を 12 単位修得している。

1. 「総合文化スタディーズ 1～3」は、いずれか 1 科目を履修し、2 単位を修得しなければならない。(4 は再履修者用)
2. 「日本文化入門演習」「国際文化入門演習」「文化史入門演習」は、原則として自領域の科目を 1 科目履修し、2 単位を修得しなければならない。
 - ① 「日本文化入門演習」「国際文化入門演習」は、他領域の学生も履修することが可能である。
 - ② 「文化史入門演習」はクラス分けをして行われる。
3. 「基礎演習 1a～22a」「基礎演習 1b～22b」「演習 1a～22a」「演習 1b～22b」は、原則として自領域(国際文化領域は専攻言語別)の科目を各 1 科目履修し、各 2 単位を修得しなければならない。領域別(専攻言語別)の番号は以下の通りである。
 - ① 日本文化領域: 1～5
 - ② 国際文化領域(英語): 6～9
 - ③ 国際文化領域(スペイン語): 10～13
 - ④ 文化史領域: 14～22
4. 専門コア科目を 23 単位以上修得した場合、22 単位を超えた分は、自由選択 (49 ページ) として、卒業に必要な単位に数えることができる。

表 2-1 総合文化学科専門科目表: 専門コア科目

| 区分 | 年次 | 科目 | 単位 |
|-------------------|----|---|-------|
| 必修 | 2 | 総合文化データサイエンス | 2 |
| | 4 | 研究法演習 a, b | 各 2 |
| | | 卒業論文・卒業プレゼンテーション | 4 |
| 必修科目単位数合計 | | | 10 |
| 選択 | 1 | 総合文化スタディーズ 1, 2, 3, 4 | 各 2 |
| | | 日本文化入門演習 | 2 |
| | | 国際文化入門演習 | 2 |
| | | 文化史入門演習 | 2 |
| | 2 | 基礎演習1a, 2a, 3a, 4a, 5a, 6a, 7a, 8a, 9a, 10a, 11a, 12a, 13a, 14a, 15a, 16a, 17a, 18a, 19a, 20a, 21a, 22a | 各 2 |
| | | 基礎演習1b, 2b 3b, 4b, 5b, 6b, 7b, 8b, 9b, 10b, 11b, 12b, 13b, 14b, 15b, 16b, 17b, 18b, 19b, 20b, 21b, 22b | 各 2 |
| | 3 | 演習1a, 2a, 3a, 4a, 5a, 6a, 7a, 8a, 9a, 10a, 11a, 12a, 13a, 14a, 15a, 16a, 17a, 18a, 19a, 20a, 21a, 22a | 各 2 |
| | | 演習1b, 2b 3b, 4b, 5b, 6b, 7b, 8b, 9b, 10b, 11b, 12b, 13b, 14b, 15b, 16b, 17b, 18b, 19b, 20b, 21b, 22b | 各 2 |
| | | | |
| 選択科目で修得すべき単位数 | | | 12 以上 |
| 専門コア科目で修得すべき単位数合計 | | | 22 以上 |

3 地球市民学部 地球市民学科

地球市民学科専門科目の履修

地球市民学科生は、表 3-1、3-2 にしたがって、自学科専門科目の単位を、必修科目 43 単位、選択科目 22 単位以上、合計で 65 単位以上修得しなければならない。

自学科専門科目を 66 単位以上修得した場合、65 単位を超えた分は、自由選択(49 ページ)として、卒業に必要な単位に数えることができる。

履修上の注意

必修科目

1. 学生は、表 3-1 にあるとおりの順序で、複数の分野をまんべんなく必修科目として履修していく。1 年次 7 科目 16 単位、2 年次 5 科目 10 単位、3 年次 3 科目 5 単位、4 年次 4 科目 8 単位が必修である。
2. 学生は入学時、地域共生領域またはソーシャルデザイン領域を選択する。ソーシャルデザイン領域の学生は 1 年次に「社会課題解決のための情報スキル演習」、地域共生領域の学生は 2 年次に「国際協力のための英語」を、領域必修科目として履修する。異なる領域の領域必修科目は、選択科目として履修することができる。
3. 「チュートリアル」「地球市民としての思考と表現 1, 2」「プロジェクトのための英語コミュニケーション」「プレゼンテーション技法」「キャリアのための英語コミュニケーション」「データと社会」はクラス分けをして行われる。
4. 「研究プロジェクト 1, 2」「研究プロジェクト 3, 4」は、学生の希望をもとに、それぞれ 2 年次末と 3 年次末にクラス分けを行う。学生は、入学時に選択した領域のクラスを希望しても良いし、自身のそれまでの学びを活かし、入学時異なる領域のクラスを希望することもできる。

選択必修科目

1. 学生は、表 3-2 にしたがって、地球市民セミナーから 2 単位、多文化理解と言語から 2 単位、地球社会の理解から 2 単位、PBL フィールドワークから 2 単位、専門事例から 4 単位、専門事例(英語)から 2 単位、思考法・表現法・スキルから 2 単位、計 14 単位を修得しなければならない。加えて、どの分野からでもよいので 8 単位以上修得しなければならない。合わせて、選択必修科目は計 22 単位となる。
2. 選択必修科目を 23 単位以上修得した場合、22 単位を超えた分は、自由選択(49 ページ)として、卒業に必要な単位に数えることができる。
3. 自分の関心をもとに、身につけたい知識やスキルを考え、アドバイザーと相談しながら、体系的な履修をすることを推奨する。履修モデル集を参照のこと。

表 3-1 地球市民学科専門科目表: 必修科目

| 区分 | 分野 | 年次 | 科目名 | 単位 |
|---------------------|-----------------------|----|-----------------------|-------|
| 必修 | 思考法・表現法・スキル | 1 | チュートリアル | 2 |
| | | | 地球市民としての思考と表現 1, 2 | 各 4 |
| | | | プロジェクトのための英語コミュニケーション | 2 |
| | | | ソーシャルデザイン概論 | 2 |
| | | | PBL | 各 1 |
| | 思考法・表現法・スキル | 2 | プレゼンテーション技法 | 2 |
| | | | キャリアのための英語コミュニケーション | 2 |
| | | | データと社会 | 2 |
| | | | PBL | 各 2 |
| | 総合知・応用 | 3 | 研究プロジェクト 1, 2 | 各 2 |
| | | | プロジェクト・プレゼンテーション | 1 |
| | 総合知・応用 | 4 | 研究プロジェクト 3, 4 | 各 2 |
| | | | 卒業論文 | 2 |
| 卒業プレゼンテーション | | | 2 | |
| 領域必修 | 地球社会の理解 (ソーシャルデザイン領域) | 1 | 社会課題解決のための情報スキル演習 | 4 |
| | 多文化理解と言語 (地域共生領域) | 2 | 国際協力のための英語 | 4 |
| 必修科目単位数合計 | | | | 43 |
| 選択必修 | 表 3-2 の選択必修科目欄を参照 | | | |
| 選択必修科目で修得すべき単位数合計 | | | | 22 以上 |
| 修得すべき単位数合計(必修+選択必修) | | | | 65 以上 |

卒業論文・卒業プレゼンテーション

卒業論文については、「卒業論文、卒業プレゼンテーションの手続き」(53 ページ)とともに、学科で定める手続きに従うこと。

清泉女子大学データサイエンス・AI教育プログラム＝Seisen MDASH カリキュラムにおける概要と考え方

